

歴史的建造物 花めぐり(3)

龍泉寺 ツブラジイ

(重要文化財 仁王門)

(公財)名古屋まちづくり公社 景観整備アドバイザー 野田 展葛

龍泉寺は、延暦年間に伝教大師最澄が創建したとされる古刹で、荒子観音、笠寺、甚目寺と並ぶ尾張四観音の一つとして、毎年2月3日の「節分会」には数万人の参拜者で賑います。ゆとりーとライン竜泉寺口停留所を降りて龍泉寺参道を登ると堂々とした山門(重要文化財「仁王門」)が目に入ります。

重要文化財 仁王門

建築：慶長12年(1607年)

構造形式：三間一戸・入母屋造楼門・こけら葺屋根

中央の間が通路となり、両扉脇の後方の一間四方に床板が張られ仁王像が安置されている均整がとれ堂々とした楼門です。

仁王門の右手には、ツブラジイ(*Castanopsis cuspidate*)があり五月になると全面が金色となります。これはおびただしい数の雄花の色で遠くから見てもすぐにシイの木であることが分かります。シイの木といえば普通スダジイ(*Castanopsis cuspidata* var. *sieboldii*)を指しますが、竜泉寺から東谷山にいたる守山区には広くツブラジイが分布します。両者は殆ど見分けが付きませんが実(ドングリ)の形が丸いのがツブラジイです。

龍泉寺の境内にはツブラジイの大木がたくさんあります。龍泉寺にお出かけの時は、ぜひ郷土の木ツブラジイを観察して下さい。



こけら葺きの堂々とした仁王門(26.5.14)



金色に覆われたツブラジイ(26.5.14)

お出かけは

交通：ゆとりーとライン大曾根駅から約13分 竜泉寺口停留所下車徒歩3分

運賃片道300円(地下鉄乗継した場合220円)

(愛知県名古屋市守山区竜泉寺1丁目902 052-794-3647)